

卓球バレー

卓球バレーは、近畿の養護学校で始められた競技で、実施に当たって京都市立鳴滝養護学校がルールの作成の中心となり、ルールや用具を改善、工夫しながら現在に至っています。

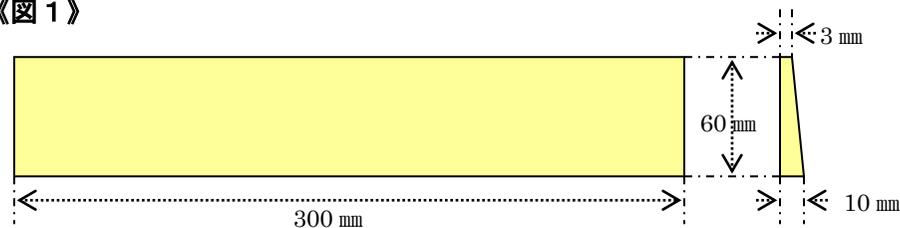
◆◆◆◆ 特色 ◆◆◆◆

- 卓球台が1台あれば広い場所を使わなくても、多く的人数でできる。
- 移動ができなくても、座位のままできる。
- 障がいの種別、軽重が違う人達と一緒に協力してできる。
- 重度障がい者の人、力の弱い人にも楽しく団体でできる。

I. 設備・用具

- ① 使用台
日本卓球ルールに規定するテーブルを使用
- ② 使用ボール
日本障害者スポーツ協会発行「全国障害者スポーツ大会競技規則・サウンドテーブルテニス」の規定に準じ、直径が4.0cmの球体で中に重さ0.6～0.8gの金属球4個を入れたものとする。
- ③ ネット
テーブルの中央に、エンドラインと平行して、ネットの下縁がコート面より5.7cmの高さに張る。サイドラインから一定距離のネットに、アンテナを立てる。(サポートを支える金具部分の先端より垂直にネットの上縁まで)
- ④ ラケット
 - たて、よことも30cm以内の大きさの板(木製)で、かつ平坦で硬くなくてはならない。
 - ラケット保持のための最小限の加工は許される。
 - 現在、卓球バレー用として、下図のようなラケットが普及している。

《図1》

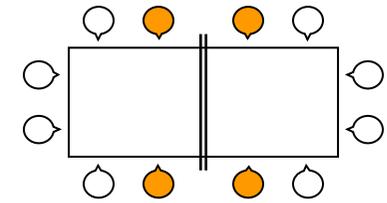


II. チーム(競技者)

各チーム6名のプレーヤーで行います。

- ブロッカー 2名
- サーバー 4名

《図2》



III. 勝敗・得点

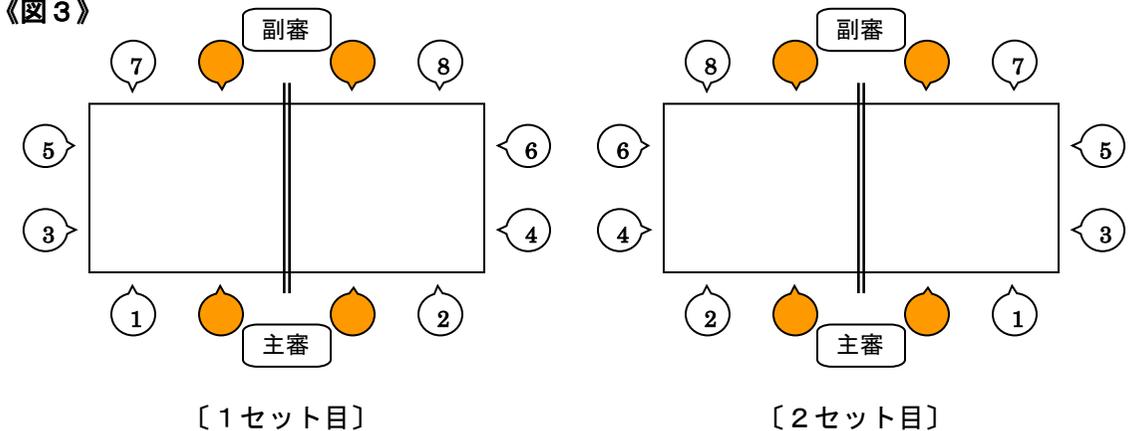
1セット15点とし、3セットマッチで2セット先取したチームが勝ちとする。但し、デュースは行わない。

得点は全得点法(ラリーポイント制)とする。

IV. サービス

- 主審の合図から5秒以内に行い、サーバーの正面のエリア内にボールを静止させ、ボールから手を離して打ち出すものとする。
- サービスの順は、《図3》のとおりである。

《図3》



V. 反則

次の場合、失策として相手に1点を与える。

- ①オーバータイム ②ドリブル ③ホールディング ④オーバーネット
- ⑤タッチネット ⑥ストップボール ⑦ボールアウト ⑧ボディーボール
- ⑨インテンションファール ⑩サービスミス ⑪サーブブロック
- ⑫スタンディング ⑬サポート